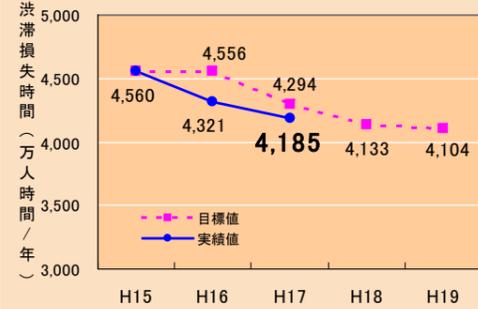


◎渋滞対策の推進

アウトカム指標：渋滞損失時間

渋滞が少なく、快適で生産性の高い道路整備を示す指標

指標解説 [渋滞損失時間(人・時間)=損失時間×交通量×1台あたりの平均乗車人数]
渋滞の無い場合の所要時間と実際の所要時間の差に交通量と乗車人数を乗じた値

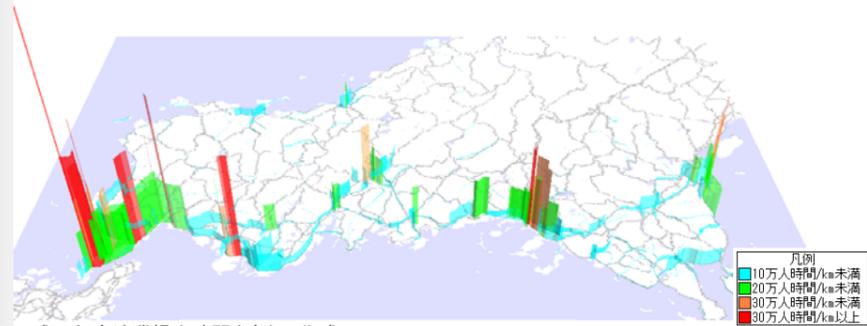


山陽都市部に集中する交通渋滞

山陽側の都市部とその周辺地域で交通渋滞が慢性化しており、市民生活や都市活動に深刻な影響を与えています。

渋滞による損失時間は年間約4千万人時間で、これは山口県民一人あたり年間約27時間の損失にも上り、環境問題、経済効率の低下等を引き起こしています。

渋滞損失時間の約4割近くが下関都市圏で発生しています。



※平成17年度渋滞損失時間をもとに作成
※一般県道以上を対象

山口県内の1kmあたりの渋滞損失時間

現状

分析結果に基づく重点的な渋滞対策の実施

1kmあたりの渋滞損失時間が大きい順に並べると、累積上位2割区間の損失のうち約7割が直轄国道で発生しており、これらの地域を対策重点箇所として選定しています。

また、このような損失時間の総計が高い地域に該当しなくとも、朝夕の渋滞が激しい箇所など地域の実情に応じて渋滞対策を実施していきます。例えば、宇部拡幅は累積上位2割区間には該当していませんが朝夕の渋滞が激しく(最大渋滞長:1km(H15))、地域の生活に多大な影響を与えていました。

このように渋滞状況について適宜分析を行い、渋滞箇所を中心に対策を実施しています。



※平成17年度渋滞損失時間をもとに作成

取組方針

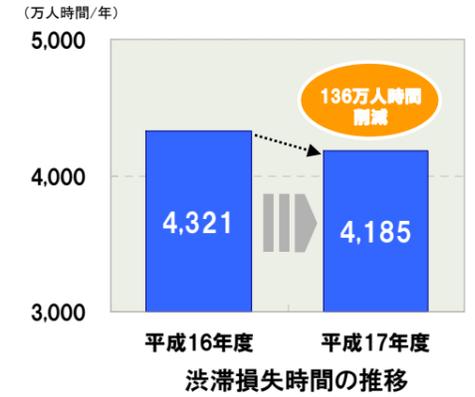
平成17年度達成度報告

平成17年度の目標を達成

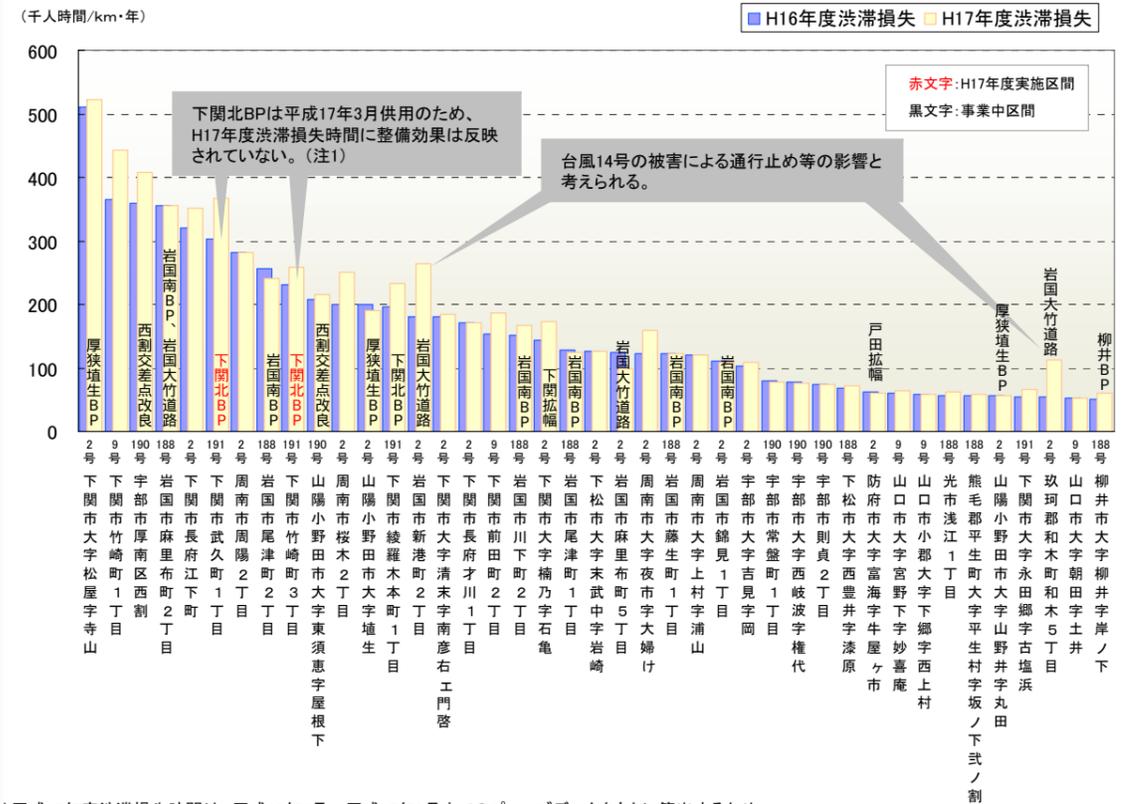
平成17年度の渋滞損失時間の目標値は、前年度から29万人時間の削減を目指し、4,294万人時間/年と設定しました。

平成17年度の渋滞損失時間は、前年度値(4,321万人時間)から136万人時間削減され4,185万人時間となり目標を達成しました。

平成17年度は、台風14号による土砂流出等の被害により、山陽自動車道や国道で通行止めが発生するとともに、その影響により岩国地域で渋滞が発生しました。このため前年度よりも渋滞損失時間が大変高くなった区間もあります。



直轄国道のセンサス区間別1kmあたり渋滞損失時間の経年比較



注1)平成17年度渋滞損失時間は、平成16年4月～平成17年3月までのプローブデータをもとに算出するため。

※平成16年度・平成17年度渋滞損失時間をもとに作成

H17年度達成度報告の主な事業

事業主体	事業名称	延長	供用年次	整備効果及び分析結果の概要	紹介ページ
国土交通省	国道191号 下関北バイパス	1.1km (部分供用)	H18.3	・下関北バイパスの整備効果を確認するため、供用前後にプローブ調査や交通量調査等を行いました。 ・これら調査データの分析結果から、一定の渋滞長の減少や渋滞損失時間の削減効果を確認しました。(削減目標18.7万人時間/年に対し、5.0万人時間/年の削減効果を確認)	⇒9P
山口県	県道岩国大竹線 関々バイパス	3.0km (完成)	H17.11	・両バイパスの並走区間について渋滞損失時間の削減効果を確認しました。(削減目標7.8万人時間/年に対し、5.0万人時間/年の削減効果を確認) ・これらの区間を含めた岩国地域のH17年度渋滞損失時間においては台風14号の被害の影響を受けている可能性があるため引き続き渋滞損失の推移を把握していきます。	⇒10P
	県道藤生(停)錦帯橋線 平田バイパス	3.7km (完成)	H17.8		

達成度報告